

## 第2回岩倉市地域公共交通会議議事要旨

会議の名称	平成30年度第2回岩倉市地域公共交通会議
開催日時	平成30年11月16日（金）午前10時から12時00分
開催場所	岩倉市役所7階 第1委員会室
会議の議題	<p>(1) 岩倉市デマンド型乗合タクシーの実績報告について</p> <p>(2) 市民アンケート調査結果について</p> <p>(3) 地域公共交通を語る会（意見交換会）の開催結果について</p> <p>(4) 事業者ヒアリング調査結果について</p> <p>(5) 課題整理と対応方向について</p>

## 審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

## (3) 地域公共交通を語る会（意見交換会）の開催結果について

榊原委員：デマンド型タクシーをどうしたいのかという市の意見があるのか。

良い方向にもっていきたいと思うが、アンケートをみると座長意見のすきまを埋めるということを考えると、バスの利用は1割という状況。利用されていない、知ってもらう必要があるだろう。

将来を考えると、デマンド型タクシーは税投入を考えるべきという意見だと思うのだが、市としてはどうしたいのかわからない。

デマンド型タクシーの利用実態について行きと返りが異なる点もふくめて考えると、全体で方向性を考えないといけないのではないか。

一人当たりの額2,300円を考えると、いっそのこと、定時定路線にかえる。もしくは江南市のいこまいCARに変えるべきとなる。

松浦委員：2,300円という額は、市民に聞いてもわからない。判断できないと思う。

ヨーロッパでは、公共交通イコール、バスだと思う。日本は、バスの運行について民間事業者は疲弊してやっていけない。2,300円が高い安いの判断は、市長がすべきこと。

事業者の立場で考えると、午前中は車両を増やすべきだが、事業費の拡大になりできない。停留所を増やすことも、既存事業者との関係からもできない。税投入は、市長の判断によることだと思う。

## (4) 事業者ヒアリング調査結果について

## (5) 課題整理と対応方向について

磯部会長：まとめて説明いただいた。

今後どうするか。デマンド型タクシーは簡単に継続はできない。事業費用は当初1日40人乗ると目標していたので、割高になっているのは承知してほしい。どのような方向にしていくべきか。岩倉市は、公共交通が不便なところなのか、原点にもどって確認しておきたい。

榊原委員：岩倉市の公共交通をそのものをどうしたいのか。なぜ、デマンド型タクシーに議論を絞っているのかわからない。

松浦委員：デマンド型タクシーをやめて次のステップを考えると、定時定路線バスはたぶん乗らない。ルート設定は難しい。岩倉市では難しいと思う。経費も拡大する。

乗用タクシーについては乗務員不足問題がある。デマンド型タクシーは2台・運転手の確保をしているので、確実に運行できる。岩倉市の最適な公共交通をどうするか、今のやり方が問題だとは思わない。

利用者目線で考えれば、降りたいところで降りるようにすればよい。岩倉市の公共交通に対する投資について、決して多いわけではない。事業者としては、このまま進められると思う。

吉岡委員：名鉄バスでも乗務員不足は問題。アンケート調査ではバスの認知は7割あるが、利用に結び付いていないので課題と認識している。鉄道、バスなどの公共交通を連携して、利用されるように進めたい。

小林委員：なぜ岩倉市がデマンド型タクシーを採用したのかを考え直すべき。デマンド型タクシーは、鉄道やバスを補完するもの。便利にしすぎて、デマンド型タクシーが主役になると、バスの維持に影響がある。

磯部会長：事業を開始して5年を経過する。岩倉市には交通空白地があるので、その部分のフォローは必要だろう。

デマンド型タクシーについて高齢者は利用できるのか。使うためには慣れが必要。70、80歳代になって自分で予約ができるのか。サポートする人たちをどのように育てるかということも問題とならないか。

太田委員：岩倉市はコンパクトな地域。デマンド型タクシーはよいシステムだと思う。何をすべきか、事務局はわかっていると思うので、その考えを進めてもらえればと思う。デマンド型タクシーの良いところは、切り捨てることがない。コミュニティバスは、切り捨てられる場所が必ず存在する。利用できない人が発生することになる。

河村委員：自分は交通空白地に住んでいる。周りの人が使っているか、困っているのか。正直、自分の耳には困っているという話が聞こえてこない。

将来75歳になった時のことは、正直、想像がつかない。もっと将来は緊迫する状況を示すべきではないか。アンケートでは将来不安が示されていないので、税負担に対する理解が違う形になったのではないかと思う。

毎年毎年、広報・PRすべきだと思う。

市長：市長の私が話をしてしまうと、その話が決定なものになってしまう。今回は、論点整理をしたうえで、委員の自由な意見を議論してもらおうべきと考えていた。

岩倉駅や商業施設の利用ができないのは、既存の事業者のお客を奪うこと、民業圧迫になってはいけない理由がある。バス事業者、タクシー事業者の領域があり、空白部分を違う形で補完する。デマンド型タクシーがスタートした時には、そうした議論を確認していた。

地方自治体が公共交通を分担し始めたのは最近の話である。岩倉市は、日常の生活の中で、公共交通、バスを利用するのは他地域と比べ少ないところだと思う。鉄道が便利なので。

本日の意見交換をふまえて、次回は、具体的な市の考えを示す。経費の問題については、岩倉市の税収は他市に比べ少ない。そのため公共交通に対する投資も少なくしてきたが、将来の必要性等を考慮して再度考えたい。

皆様の意見を聞きながら進めていきたいと思う。

※第3回会議に関連する意見を中心に抜粋